

# 長岡・県立精神医療センター

## 新規外来受け入れ休止

### 来月から順次 常勤医4人退職

長岡市の県立精神医療センターが、2014年1月から児童・青年期外来の新規受け入れを一時休止することが16日、分かった。14年2月からは成人外来の新規受け入れも一時休止する。現在9人体制の常勤医のうち、14年3月末に4人が辞めるため。既に通院している患者の診療は継続する。県は常勤、非常勤医を確保して4月以降に順次再開させたい考え。

県が16日の県議会12月定例会で明らかにした。同センターは県内の精神医療の中核病院で、全は18歳以下、成人外来は19歳以上を診療する。12年度の新規外来患者数は

両外来合わせて1119人で、13年度は11月末まで同533人。

県病院局によると、4人の退職の理由は開業や他病院への転職。退職は3月末だが、診療の継続性を考慮して、前倒して新規の受け入れを休止する。新たに外来診療を希望する人については、最寄りの医療機関などを紹介する。

県は児童・青年期外来を4月中旬、成人外来は5月中旬をめぐりに再開させる方針。三林康弘業務課長は「後任の常勤医を新潟大病院に配置しても

らえるようお願いしているほか、県外の医師にも接触している」と話している。非常勤医師の採用も検討しているが、現時点では医師の確保のめどは立っていない。センターをめぐるのは、12年度に12人いた常勤医のうち3人が辞めたため、ことし4月からアルコール依存症専門治療を休止した。また、病床利用率が減っているとして、ことし10月に全400床のうち1病棟40床を休止。14年4月にもさらに1病棟57床の休止を予定している。

## 「どこに行けば…」

### 患者家族会

県立精神医療センターは最後のとりでなのだが、医師が少ないからと一時休止することが明らかになった16日、県内の患者団体や他病院の医師からは驚きや困惑の声が上がった。

「発達障害の子どもの通院も増えており、精神科医の負担が大きくなっている。300床以上ある同セ

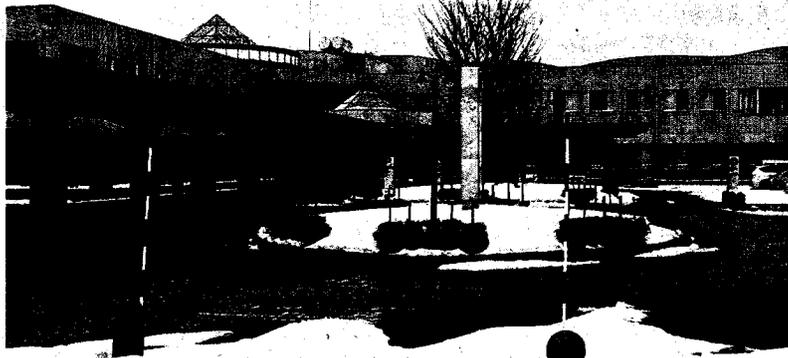
「長岡希望の会」の池野宏子会長(左)と長岡市同会「身近なところで医療を受けられないのは困る。医師減少で忙しくなり、医療の質が落ちるのも心配」と戸惑った。

「長岡希望の会」の池野宏子会長(左)と長岡市同会「身近なところで医療を受けられないのは困る。医師減少で忙しくなり、医療の質が落ちるのも心配」と戸惑った。

一方で、県の調査によると、県内病院の精神科の入院・通院患者は増加傾向で、10年度は3万5053人と10年間で約4300人増えた。

以前は精神疾患として診療するケースが少な

16日、長岡市寿2



深刻な医師不足が続く県立精神医療センター  
「どこに行けば…」  
患者家族会  
「長岡希望の会」の池野宏子会長(左)と長岡市同会「身近なところで医療を受けられないのは困る。医師減少で忙しくなり、医療の質が落ちるのも心配」と戸惑った。

らも発達障害の受診を望む人が多いので、外来のスタッフは影響が大きい」と話す。「新潟市内は勤務医らと連携して何とかやっていけるが、長岡市内は大変だろう」とおもはばかった。